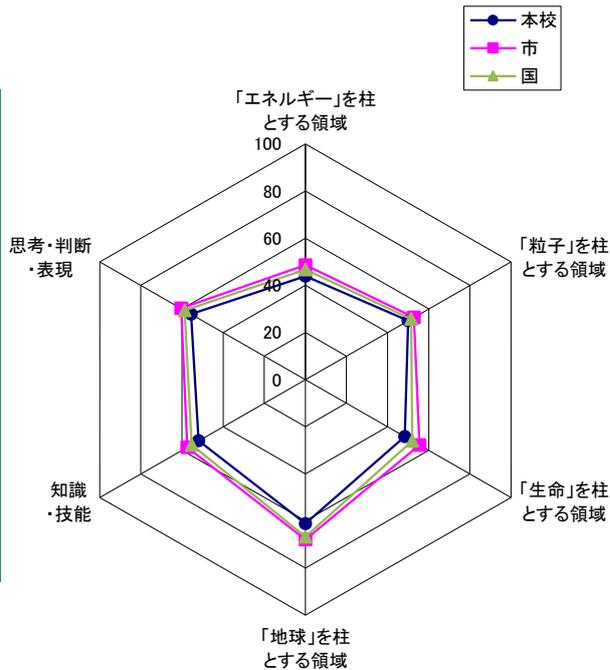


# 宇都宮市立錦小学校第6学年【理科】分類・区別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	43.9	48.6	46.7
	「粒子」を柱とする領域	50.0	52.8	51.4
	「生命」を柱とする領域	48.3	55.5	52.0
	「地球」を柱とする領域	61.1	67.9	66.7
観点	知識・技能	51.9	57.5	55.3
	思考・判断・表現	55.6	60.4	58.7
	主体的に学習に取り組む態度			



### ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	<p>・平均正答率は43.9%と国の平均よりも2.8ポイント低い。</p> <p>○乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いているかどうかをみる問題では、正答率が62.2%と国の平均より7.1ポイント高い。</p> <p>●電流が作る磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いているかどうかをみる問題では、正答率が68.9%と国の平均より9.1ポイント低い。</p>	<p>・コイルの巻数を増やすと、電磁石の強さが強くなるという関係を、具体的な実験結果や日常生活の事例と結びつけて理解させる必要がある。今後は、実験結果を整理・比較しながら科学的に考察する力を育てるとともに、変化の要因を正確に捉える力を養う。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>・平均正答率は50.0%と国の平均よりも1.4ポイント低い。</p> <p>○「水は温まると体積が増える」を根拠に、海面水位の上昇した理由を予想し、表現することができるかどうかをみる問題では、正答率が71.1%と国の平均より5.5ポイント高い。</p> <p>●水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる問題では、正答率が57.8%と国の平均より6.4ポイント低い。</p>	<p>・水の蒸発に関する問題では、水は温度によって液体から気体へと変化する性質を、今後は、身近な現象(洗濯物が乾く様子や、やかんから湯気が出る様子など)と科学的知識を結び付けて考察する活動を取り入れ、状態変化の概念をより深く理解させる。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>・平均正答率は48.3%と国の平均よりも3.7ポイント低い。</p> <p>○発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる問題では、正答率が62.2%で国の平均と同等である。</p> <p>●ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いているかどうかをみる問題では、正答率が64.4%で国の平均よりも6.3ポイント低い。</p>	<p>・ヘチマの花のつくりや受粉について、実際の観察を通して花のつくりを具体的にとらえさせるとともに、受粉によって実ができるまでの過程を図や写真、モデルなどを用いて視覚的・概念的に理解させる。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>・平均正答率は61.1%と国の平均よりも5.6ポイント低い。</p> <p>○赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる問題では、正答率が71.1%で国の平均よりも8.4ポイント低かったが、無回答者はいなかった。</p> <p>●赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現することができるかどうかをみる問題では、正答率が68.9%で国の平均よりも8.9ポイント高い。</p>	<p>・赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、実験から得られた情報を整理し、条件が変わった場合にどのような影響があるかを論理的に考察する力を育てる指導を行っていきたい。また、結果の違いやその理由を自分の言葉で説明する力を高める表現活動も取り入れる。</p>